



「富士の図」昭和23(1948年)
母校・砥部小学校のために描きました。
「郷土の児童の将来に大きくのびゆくを念願、高い理想を表現したもの。」
(『井上正夫遺墨集』より)心をこめて、納得のいくまで何日もかけて描いた大作です。

富士の図(昭和23年)



第69回忌法要(墓参)



第35回忌 岡田嘉子さんと



久保会長あいさつ(総会)

じよじさんのお楽しみ日記57

「第六十九回如月忌」の巻

砥部町が生んだ名優、井上正夫の如月忌が命日の二月七日砥部町中央公民館で行われました。私も父が会長を務めさせて頂いていた関係で若い時から毎年のように参加させて頂いております。

さて、皆さんは井上正夫をご存知でしょうか。

明治十四年砥部町大南に生まれ、苦労を重ねながら劇団の大幹部となり後進の育成や大衆向けの「中間演劇」の創出、新派劇や映画などで大活躍され「日本芸術員会員」に推された方です。

その門下生や共演者、ゆかりの人達には岡田嘉子、水谷八重子(先代)花柳章太郎、鈴木光枝、喜多村緑郎等々、数多くの有名人がいます。

「私は青年です。未来永劫の青年です。だからこそ私は生命のある限り努力を続けようと決意したのです」(井上正夫 五十六才の時の宣言)
演劇に対する並々ならぬ意気込みとほとばしる情熱を感じる言葉です。

多才であった井上正夫の趣味に玄人はだしの絵があります。砥部町には絵画や絵手紙が数多く残っていますが私が通った砥部小学校の講堂に「郷土の児童の将来に大きくのびゆく念願、高い理想を表現した」立派な富士山の絵が揚げられていました。

私の思い出は昭和六十年、岡田嘉子さんをシャトーテル(ホテル)までお送りした時、井上先生は幸せですね、亡くなられて三十五年も過つのに毎年法要を続けられて…。砥部の人は暖かいですネと申されたのが今も心に残っています。

あれからでも三十四年の月日が過ぎました。今年も後輩の砥部小学校の児童有志がお参りしてくれました。

いつまでもこの思いが続きますよう祈っています。



中村剛志